
企てるスキーマー

小口 一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

企てるスキーマー

【Nコード】

N8221Y

【作者名】

小口 一

【あらすじ】

小学生太郎は毎日元気に学校に通っている。一軒家のお婆さんの家にパトカーと救急車が止まっている。何があったのか…

一軒家のお婆さん（前書き）

閲覧スタート？

一軒家のお婆さん

小学生太郎はいつものように通学路を歩いていた。太郎は学校を休まず毎日元氣に通っていた。太郎の家の近くにはボロボロの平谷一軒家があつて、お婆さんしか住んでいないという一軒家だった。たまにゴミを外にだしている所を太郎は見えていたが、そのお婆さんは挨拶もしないで無愛想なお婆さんだった。

太郎『こんにちは』

太郎一軒家のお婆さんを見かけ挨拶をした？

お婆さんは振り返ると太郎をギロツと見た。太郎はお婆さんに見られて震え上がった。そのお婆さんは拳銃を片手に太郎の方を見ている。太郎は危険を感じ一目散に逃げた。太郎を追いかける様子はない、次の日からお婆さんはあまり見かけなくなつた。ある日お婆さんが住んでいる一軒家にパトカーが数台止まっている。救急車も止まっていて、あわただしい様子だ。

警察官『変死体だ。死後一週間て所かな…』

太郎『何かあつたんですか？』

警察官『事件だから早く帰ってね』

太郎『ご苦労様です』

太郎『あのお婆さんしんでしまったのかな』

太郎は家に帰りテレビを見ていると、お婆さんの家の事件をニュースでやっている。

ニュースキャスター『今日のニュースです。ー県ー市で変死体が見つかりました…』

太郎はテレビを消すと立ち上がった。後ろを振り向いた瞬間。血ま
みれのお婆さんが太郎の体を突き破る…

一軒家のお婆さん（後書き）

閲覧ありがとうございました？

眼力中年（前書き）

中年男性をみかけたりよう、助けを求める中年男性を助けようとしたがりようは…

眼力中年

りょうは小学生毎日元気に学校に通っていた。通学路には一軒家があり平谷建てであまり綺麗ではない、一軒家だ。りょうはいつものように歩いていたが、一軒家の前に差し掛かるとりょうは足を止めた。一軒家から誰かの声が聞こえる。

一軒家『バリーン、ドカーン』

一軒家から気分の悪そうな中年男性が出てきて、りょうの方に歩いてくる。

中年男性『助けてくれ…』

中年男性口から血を吐き倒れてしまった。りょうは救急車を呼ぼうと歩き出した。その時…

りょうの口から大量の血…りょうは死んでしまった。

眼力中年（後書き）

閲覧ありがとうございました？

背後に隠れ込む男（前書き）

会社に入社した直後のゆみ23歳に襲いかかる男達。ゆみはどうなるのか…

背後に隠れ込む男

ゆみは金融商社で働く23歳彼氏もないフリー。ゆみは帰り道行きつけの珈琲店で珈琲を飲んでいた。店員さんとはいつもゆみは話をしていた。その日も歩いて帰るとゆみの後ろから猛ダッシュをして通り過ぎる男達。

ゆみ「何かしら、事件の犯人かしら」

ゆみは気付かなかった…後ろに独りだけ男がピッタリくっ付き、ゆみを後ろから見ている。ゆみが気づくと…男は居なかった。ゆみはまだ入社直後で地域の事を良く知らなかった。後から聞くとその辺は治安が良くなり、事件もよくあったらしい。ゆみは次の日も会社に行き仕事を終えて帰ろうとすると…またしても男の気配を感じるゆみ…ゆみは気絶…気付くと火葬場の火葬室の中だった。ゆみは他界していた…

背後に隠れ込む男（後書き）

閲覧ありがとうございました？

自動式短銃（前書き）

かずやは会社がなくなり、喫茶店にいと男達に…

自動式短銃

かずやは夢を見ていた。ふと起きると会社に行く時間すれすれになっていた。慌てて会社に出勤したが、会社はなくなっていた。社長が借金を背負い逃げてしまったのだ…かずやはいくあてもなく路頭にさまようしかなかった。かずやは駅前の喫茶店で休んでいると。数人の男達がいきなりかずやを引きずり車に乗せられてしまい。かずやは連れて行かれてしまう。付いた所はマンションの一室で、中にはだれもいなかった。男達はすぐに帰ってしまい。かずやは部屋に取り残されてしまった。帰ろうとすると少年が入ってきて、かずやを見ている。少年の目の色は青色で日本人ではなさそうだ…

少年『かずやだろ』

かずや『なんだよ、お前』

すると少年の目は光りを放ちかずやは少年を見て立っていられなくなってしまった…

目が覚めるとかずやは警察署に居た…殺人容疑で捕まってしまったのだ。少年は刺殺された様子で、部屋にはかずやしか居なかった事から逮捕。かずやは男達の事を説明したが、刑事は頷くだけ。かずや『信用して下さい。本当にやってないんです』

刑事『嘘発見器を使ってもいいかな？』

かずや『なんでそんな事をしなければならいんですか？やってないのに！嫌です』

すると刑事はかずやを睨む…

刑事『……』

よくみると刑事の顔はあの男達に似ている。

かずや『あっお前!』

『ツキユッーーン』

男の持っている拳銃を奪い、かずやは男の頭を撃ち抜いた。

自動式短銃（後書き）

閲覧ありがとうございました？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8221y/>

企てるスキーマー

2011年11月24日16時46分発行